

校長室だより

学校教育目標「学びを生かす子供」

八代市立龍峯小学校

校長 村嶋 博史



R3,12,22

NO,32

なわとび大会を行いました

12月16日(木)の2校時に1年生・3年生・5年生が、3校時に2年生・4年生・6年生が、体育館にて「なわとび大会」を行いました。

子供たちは、これまで体育の時間や休み時間などに練習した成果を発揮しようと、とても頑張っていました。

なわとび運動は、小学校期に主に育つ「調整力」(※1)を養うのに大変適した運動ですので、これからも続けてほしいと思っています。(いつでもどこでもできる運動でもある)

今回は、子供たちが体育館いっぱいに広がって行う関係上、感染症防止対策としまして、保護者の方々には見学をお控えいただきました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。



※1 調整力とは、神経の働きによって、運動中の姿勢を調整してバランスをとったり、運動を機敏に、巧みに行ったりする能力です。調整力が高まると、いろいろな運動やスポーツを上手に行うことができるようになります。

実り多き2学期も終わろうとしています

2学期は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じつつ、学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障することができたと思っています。中でも予定していた学校行事等を全て実施できたことは、子供たちの自己有用感(※2)の獲得につながったと思っています。

本校では、学校行事等を通して、子供たちに自己有用感を培わせようと学校総体で取り組んでいます。具体的には、まず、各種学校行事等の目的を子供たちに知らせます。その上で、子供たち一人一人に取り組みのめあてを立てさせ、その達成に向けた頑張りを促すとともに、取り組みの過程や結果の良さを随時認め・褒め・励ますことで、自己有用感を培わせようとしています。また、取組の重点や改善を図る目的で、子供を対象とした定期的なアンケート調査をしています。

ここで培った自己有用感は、3学期の学習や生活の充実に必ずやつながるものと思っています。

3学期も子供たちの「命」と「学び」(確かな学びと自己有用感の伸長)を守ることを念頭に、おいた教育活動を展開していきますので、変わらぬご理解とご協力の程よろしく申し上げます。

※2 「自己有用感」は、他人の役に立った、他人に喜んでもらった等、相手の存在なしには生まれてこない点で、「自尊感情」や「自己肯定感」等の語とは異なります。最終的には自己評価であるとしても、他者からの評価やまなざしを強く感じた上でなされるという点がポイントです。単に「クラスで一番足が速い」という自信ではなく、「クラスで一番足が速いので、クラスの代表に選ばれた。みんなの期待に応えられるよう頑張りたい」という形の自信です。その意味では、「クラスで一番」かどうかは、さほど重要ではなくなっているとさえ言えます。

「自己有用感」の獲得が「自尊感情」の獲得につながるであろうことは、容易に想像できます。しかし、「自尊感情」が高いことは、必ずしも「自己有用感」の高さを意味しません。

明後日、通知表を持ち帰ります

明後日24日(金)に、お子様が「通知表」を持ち帰ります。その際のご家族の方からの第一声がとても重要です。まず、評定や所見欄等からお子様の良さや伸び、変容等を見つけれられ、認め・褒め・励ましてください。それが、子供のやる気に繋がります。よろしく申し上げます。